

高齢化がわが国家計の貨幣需要に与える影響

中央大学大学院 若園智明

高齢となった家計は、自らが保有している金融資産に対して、より安全で流動性の高い形態を望むようになると考えられる。このような傾向は、わが国のように家計が多額の金融資産を保有している場合に、より大きな影響を与えることとなる。

本研究ではこの点を考慮し、わが国家計の貨幣需要行動において、深刻化する家計の高齢化が与える影響を時系列データを用いて実証的に分析している。分析にあたっては、時系列データが保有する単位根・共和分関係に注意しつつ、長期的関係と短期的関係の両面からのアプローチを行っている。本研究で得られた結果からは、わが国家計の高齢化が、家計が保有する貨幣残高に対して有意に正の影響を与えていることが解った。また、家計の高齢化を加味した場合でも、スケール変数の弾力性の合計値は1に近くなっている。この点は、わが国経済全体の貨幣需要を分析した先例研究の結果と整合的である。